

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立内山小学校 (※正式名称を記載)
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫※注1
 中学校 中高一貫※注2 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒464-0075
名古屋市千種区内山一丁目4番15号

E-mail uchiyama-e@nagoya-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 60名 女子 64名 合計 124名
 幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

主体的に活動できる児童を目指して ～内山式多文化共生の活動を通して～

1. はじめに

15名～30名弱のクラスで6年間過ごす本校の児童は、中学校に入学して新しい仲間と、馴染むのに時間が掛かったり、校外学習で他校の児童とうまく関わりがもてなかったりして、本来の自分のよさを出すことができない。そこで、低学年のうちから、様々な人と関わる手立てを用いて、どんな場であっても自然に自分のよさが出せるような実践を行っている。その実践の一環として、行っているたてわり活動と外国人との交流活動について本年度は紹介したい。

2. 実践

(1) たてわり活動について

本校の主なたてわり活動は以下の計画で行われている。

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
主題と実践内	出会い たてわり花壇 春の遠足	楽しむ 遊び つながい				仲を深める 秋の遠足 感謝の会のプレゼント作り			思い出作り 遊び 卒業生へのプレゼント作り		別れ 感謝

これに加え、毎月たてわり給食を実施している。たてわり給食については、高学年が中心となり、役割を決めている。それぞれの実践の様子を紹介したい。

① プレゼントにする花を育てよう。

本校では学年園に加えて、それぞれのたてわり班に自由に使ってよい土地を与えている。しかし、その使い道については、経験値の少ない児童では思い付かない。そこで、実践に取り組みながら数年をかけて使い方を伝授していくことになった。

児童は、やってみた上で失敗や成功し、その中でよりよい方法をそれぞれが見付けることができる。昨年度は、作物を植えた。本年度は、各班が花を育て、その花を生かして普段お世話になっている学区の方にプレゼントを作らせる計画で取り組んだ。

「プレゼントにする花を植えよう」というめあてでそれぞれの班が花の種類からその色を選んだ。最終的に花束にするという明確なめあてがあったので、それぞれの花を組み合わせる花束にしたときにどうなるかを、6年生が話し合いの指揮をとって話し合った。花壇を実際に見に行き、植える場所や水遣り計画も行った。児童に実践を根付かせるためにそれぞれの土地に育ててい【植える花を話し合う子ども】る人の名前をネームプレートに書かせた。児童はたてわり班の花壇を休み時間毎に見に行ったり、土が乾いていると、水遣り当番ではなくても進んで水遣りをしたりと、たてわり花壇の花を大切に育てる姿が見られた。



【植える花を話し合う子ども】



【除草してネームプレートを立てる子ども】



【花を植える子ども】

② プレゼントの花束を作ろう

いつも子どもたちを見守ってくださっている学区の方に、たてわり花壇で児童が育てた花で花束を作ることになった。育てた物が記念になるようにプリザーブドフラワーを作ることになった。近所の花屋に作り方を教えてもらい、花材作りは5、6年生が行った。採取した花を薬品に付けて色を抜いたり、乾かしたり、色をつけたりと時間を掛けて作った。



【花を薬品に付けて色を抜く作業】



【色を抜いた花】



【着色後の花】



【花を乾かす作業】



【色づけ作業】

③ 感謝を込めてプレゼントを渡そう

アレンジは、たてわり班で協力しながら作った。「自分がもらったら嬉しいプレゼントにしよう」と高学年が声を掛けながら作っていった。みんなで1つの物を作り上げる作業では、言葉を掛ける姿や相談する姿が見られた。どの班も「見てうちの班の」と他の班に自慢し合う程、納得のいくものが完成していた。みんなで作り上げたアレンジを地域の方にプレゼントした。地域の方も手間暇掛けて作り上げた児童の心のこもったプレゼントに大変喜んでいただけた様子だった。



【できあがったアレンジ】



【地域の方にプレゼント】

【アレンジをする子ども】

④ たてわり遠足

たてわり班で春と秋に遠足に出掛ける。春の遠足は児童の「たてわり班で仲良くなろう」の一環として、近くの公園にたてわり班で出掛ける。事前にたてわり班で集まって決めた遊びで遊んだり、一緒に弁当を食べたりした。高学年は低学年の様子を見ながら世話を焼いていた。また、リーダーとして頼られることも味わうことができた。秋の遠足では、様々なたてわり行事を通して、一緒に協力する仲間として、学校から東山動植物園まで、行きも帰りも協力しながら行った。地下鉄では、高学年が低学年のマナーをとがめる姿も見られた。現地では、たてわり班があらかじめ話し合っ



【たてわり班と一緒に遊ぶ子ども】

⑤ たてわり給食

月に一回たてわり給食を行っている。一緒に会食することで何でも話せる仲間になっている。また、役割分担をすることで、互いに気遣いながら配膳をしたり、食べる人のことを考えて丁寧に盛りつけたりすることで責任感も培われている。会食時に、たてわり遊びの計画を立てたり、感謝の会のプレゼントの相談をしたりするなど、2学期以降は、たてわり給食を話し合う場として用いている。



【6年生の指示で動く子ども】

(2) 外国人との交流活動について

外国語活動で学習してきた英語を生かして外国人留学生と交流活動を毎年行っている。この活動を通して、英語の習熟だけでなく世界という広い視野で考えることができる子どもの育成を目指している。以下、5年生、6年生の活動の様子を紹介したい。



【楽しく会食する子ども】



【協力して配膳する子ども】

① 日本のよさを伝えよう (5年生)

5年生は、家庭科で和食を、社会で国土を学習する。そこで、外国語活動で学習した英語を使って日本のよさを外国人に伝えようをめあてに取り組んだ。5年生の児童は、和食を伝えたいという意見が多かったので、外国人と一緒にレストランに行き、和食を説明しながら楽しくごっこ遊びをするという設定でコミュニケーション活動を行った。そば屋、どんぶり屋、すし屋の3店に絞り、それぞれの店で説明させた。ごっこ遊び後も外国人とやり取りをする児童が多かった。最後に相手の国の文化も教えてもらい、一緒に歌ったり、遊んだりしていた。楽しく交流ができたことが成果といえる。

基本実践

Do you like
うどんorそば
Hot? Cold?
Do you
want
topping?



【説明する】

【成果物でやりとり】



相手の国を話題にしてやりとり
What
Japanese
food do
you
like?



This is まぐろ
Oh, Tuna.
This is たこ
OK octopus



買い物してきたものを話題
にしてやりとりする

発展



相手国の手遊びで遊ぶ

② 修学旅行で行った京都と奈良の観光案内をしよう

外国人に人気の高い観光地、京都奈良は、児童が修学旅行で行った先でもある。京都奈良で自分たちが感じた思いを外国人に伝え、日本についてもっと知ってもらおうというめあてで行った。児童は、英語で校内を道案内しながら長い間外国人と話す時間を設定し、英語でやり取りさせた。また、道案内した外国人の情報を集めることも課題に出した。これは、英語を使うための必然性を設けるためである。



【外国人の質問に答える子ども】



Tony	さんのカルテを作るう
1. どの国の人でしたか?	オーストラリア
2. どんな人でしたか?	とても明るく、やさしい人。
3. いろいろな話したり、身振り手振りで伝え合ったりして、相手のどんなことがわかりましたか?	相手のTonyさんの好きな食べ物や好きな動物、得意なスポーツなど、Tonyさんの性格が分かりました。例えば、Tonyさんは好きな動物が犬で自分の家で犬を飼っているようです。また、Tonyさんはアイスが得意で、特にチョコレートアイスが好きだということも分かりました。今回の目標である、言葉の壁を乗り越えてTonyさんのような外国人とコミュニケーションがとれることが分かりました。

左は、案内した外国人の情報カルテである。このようにたくさん質問して外国人のことを知ろうとする気持ちで実践に取り組んだ。

道案内の後、本校の伝統となっている和太鼓を外国人に披露し、その後、外国人にも太鼓の打ち方を教え、一緒に演奏した。

この実践で、何かを一緒に行うことで心が通じることを児童が感じることができたことが、成果といえる。

③ 終わりに

たてわり活動や外国人との交流事業で、6年を掛けて臆することなく外の世界に積極的にチャレンジしていく児童を育てたいと考えている。特にたてわり活動では、6年生は全ての児童のリーダーとして育てることを目標に取り組んでいる。毎年、この目標で事業を精選したり、新しいことを取り入れたりしていることで、児童は伸びやかに活動している。たてわり活動で設定した関わりにとらわれず、児童自ら「～に取り組みたい」と学校を動

かす力を付けていきたいと考えている。

また、外国人との交流事業では、様々な国の人と触れ合い、昨今の政治的・社会情勢に興味をもったり、地球温暖化を世界レベルで考えたりする児童に育てていきたいと考えている。今回は、本校の伝統の和太鼓を外国人に披露して、太鼓の打ち方を外国人に教える実践も行った。教える英語を特に学んでいなくても、上手にやりとりできていた。コミュニケーションは言葉ではなく人と人が対峙すれば心が通じ合うことを、この体験で児童は感じ取ることができた。また、名古屋市立大学の留学生の派遣は、本校のこの理念に大変寄与するものである。今後もこのような事業を続けていきたい。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特に無し

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

17名～26名の少人数且つ単学級の本校の特徴は外部との折衝に弱いことである。そこで、ESDの取り組みとして、積極的に外部に自分の力を試そうとする自主性のある児童を育てる「内山式多文化共生」をねらいとした。まず、たてわり活動で学年の壁を取り除いて、様々な活動を行わせていく。昔の徒党を組んで遊ぶ子どもをイメージしている。活動内容は、遠足、給食、地域の方・卒業生への感謝の会、運動会など多岐にわたって活動している。普段の活動である花壇で花を育てる活動を感謝の会に結び付けたり、給食で計画を練ったりして横断的なカリキュラムにすることで時短を行っている。全ての学級が関わるため、自然な形で教員への啓蒙になっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

たてわり活動を本校の目玉として、毎年行っている。さらに総合の時間として、地域の方に関わる活動を増やしている。例えば、地域と共に行う運動会、作品展、盲学校との交流会、地域の店探検隊、防災マップ作り、保育園との交流、地域に住む外国人に英語を教えてもらう等の活動で外部との交流を図っている。それぞれの活動を毎年見直しながらより良い学習になるように取り組んでいる。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

中部大学の宮川先生に、新卒や転勤者への説明の補助のために派遣していただいた。ただ、大学の先生の話は難しく、本校での取り組みを理解した上での話では無かったため、教員の理解度は低かったと感じた。実践しながら本校の教諭がそのたびに説明した方が効果的だと感じた。

- ④ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項2-2に対応

減災プログラムに参加して、本校の防災教育について発表した。他校の防災教育も傾聴することができた。環境が異なる学校同士の発表であったが、実際に体験したことの無い災害に対する教育の原点は、子どもが災害時にとっさに命を守る行動を取ることができ、普段から災害に対する心構えができていくことだと参加者全員が理解し合い、その方法について様々な視点から話し合うことができた。本校の防災教育に役立てることができた。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、

大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

特に無し

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ESDリーダーシップ研修に参加して、メーリングリストによって日々、学んだことについて実践したことを情報交換し合っている。なかなか他の教員に理解されないことが、共通の悩みだったが、推進者として互いに励まし合いながら各学校で推進している。

⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき (特に強調したい) 内容 (例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化) (200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

避難訓練には、保護者を巻き込んで本年度は実践した。起震車体験を親子で行い、同じ体験をすることで家庭で話し合った。引き取り訓練では、広域避難所、一時避難所を確認して、いざとなったら、どこに集合するか家族で話し合った。他にもヘルメットを児童全員分購入し、登下校で被災した場合にどこに逃げるか、どこが危険なのかを確認して、それを家族に報告するなど、常に家族を意識した活動を行った。家具を固定したり、避難場所を家族で確認しに行ったり、防災リュックを購入する家族も現れた。

(3) 平成30年度の活動計画 (200~400字程度)

たてわり活動を充実して、主体的な児童を育てたい。
来年度は、子どもから挙がって来る案を取り上げて、現実化していく。こうしていくことで、より主体性をもたせる。
また、外国語活動での外国人との交流事業を3, 4年生でも行えるようにしていきたい。発達段階に応じた交流の内容やその準備についても研究を進め、内山式多文化共生の意識を教師も児童も高めていくことができるようにしていきたい。